

<報道資料>

2009年10月1日

PR09-S004

モルテンの次世代バレーボール 「フリスタテック バレーボール」が 「2009年度グッドデザイン賞」を受賞



競技用ボールとスポーツエキップメントメーカーの株式会社モルテン(広島本社:広島市西区、代表取締役社長:民秋史也)は、新技術『フリスタテック[®]』の搭載により進化した『フリスタテック バレーボール』で、財団法人日本産業デザイン振興会が主催する「2009年度グッドデザイン賞」を受賞いたしました。

今回の受賞は、ボール表面の突起が飛行中の空気抵抗の乱れを防ぎ、飛行の軌道を安定させたことや、さまざまな照明環境でも見やすいカラーリングや柔らかな印象を与える流線形パネルなど、選手が能力を発揮するための高い機能性を備えており、これまでのボールとは異なる次元の最新モデルであることが伝わってくる点が、評価されました。

今後も、機能のみならず、デザインにおいても優れたボールとスポーツエキップメントを開発し、安心して快適にスポーツを楽しめる環境を整えることにより、スポーツ関連業界全体の更なる発展に貢献してまいります。

■ 製品特長

1. 新技術フライト スタビリティー テクノロジー『フリスタテック[®]』を搭載

皮革表面に配置した“六角突起”が、ボールに接する空気の乱れを抑制し、飛行軌道を安定させます。これまでコントロールすることが難しかった、サーブ落下点のばらつきの低減に成功しました。



FLIGHT STABILITY TECHNOLOGY



皮革表面に“六角突起”を配置

2. 流線形パネルの採用

従来のバレーボールの上下・左右・前後の6面フレームを継承しながら、フレーム内にそれぞれ流線形パネルを採用することによって、ボールの回転が、さらになめらかに見えるようになりました。

3. 照明の影響を受けないカラーパターンで視認性を向上

モルテンオリジナルの3色カラーパターン(白・赤・緑)を継承しています。最高明度の白は、照明の安定しない体育館でも、プレイヤーがボールをとらえやすく、同明度の赤と緑は回転時のボールの動きを、なめらかに見せるのと同時に、視認性も向上させました。



フレーム

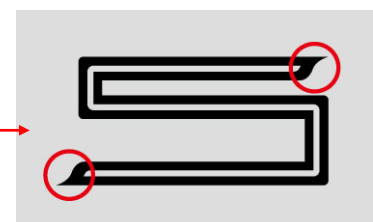
■ デザイン開発者の想い スポーツ事業本部 デザインディレクター 稲林 亮

最高峰のバレーボールとして、選手にも観戦者にも新しい次元のボールであることを感じてもらえるよう、機能とブランドとしてのオリジナリティを融合し、一目で新鮮さが感じられるボールとなるようにデザインしました。スムーズに回転することが感じられる滑らかなパネルラインや、5000の数字(商品グレードを表す)にはボールのラインを使いつつ先進的なイメージのフォントを開発したり、細部にもこだわってデザインしました。

【フリスタテックバレーボール専用にデザインしたオリジナルフォント】



パネルシェイプをモチーフにして、スピード感を感じられ、モダンな(現代風)イメージになるようにデザインしました。



■ グッドデザイン賞(Gマーク)とは

「グッドデザイン賞(Gマーク)」は、1957年に通商産業省(現:経済産業省)によって設立された「グッドデザイン選定制度」を継承し、1998年より財団法人日本産業デザイン振興会の主催事業として運営する、日本で唯一の総合的デザイン評価・推奨制度です。これまで50年にわたり、新しい時代の文化と生活を創造することを目的に「より豊かなライフスタイル」と「良いビジネス」を導く運動として展開され、今日では国内外の多くの企業や団体が参加しています。審査理念としては、今年度より生活者の視点をより重視したものになっています。また「グッドデザイン賞」受賞のシンボルである「Gマーク」は良いデザインを示す象徴として広く一般に親しまれています。

■ モルテンのグッドデザイン賞受賞歴

昨年受賞した、着る拡声器『パワードボイス』、粉詰まりしないラインカー『ラインマックス』、ハンドポンプ『ペータゴン』やホイッスル『ドルフィンプロ』など、ボール以外にも数多くの製品で評価をいただき、グッドデザイン賞を受賞しています。

■ モルテンについて

競技用ボールとスポーツエキップメントメーカーのモルテンは、1958年より、サッカーボール、バスケットボール、バレーボール、ハンドボール等の競技用ボールを製造/販売し、決して妥協することない品質を維持しています。モルテンは世界中のトップリーグやチーム、国際大会で使用される、公式試合球やスポーツエキップメントなどの革新的製品を生み出し、グローバル・スタンダードとしての品質を高め続けています。

詳細については、弊社サイトを参照ください。 URL: www.molten.co.jp

モルテンは、2008年11月1日に創立50周年を迎えました。